

平成 30 年 11 月 20 日

松田町長 本山博幸 殿

松田町総合計画審議会
会長 古館信生

(仮称) 松田町第 6 次総合計画について (答申)

平成 30 年 8 月 10 日付け松第 458 号で諮問のありました標記のことについては、当審議会において慎重に審議を重ねてきました。

このたび、本計画の基本構想及び基本計画について取りまとめましたので、次のとおり答申します。

なお、現在、審議中であるアクションプログラム（以下「実施計画」という。）については、来年 2 月を目途に審議を了する予定であることを申し添えます。

記

総括

当審議会においては、まちの将来像を「いのち“育み”未来へ“ツナグ”進化“つづける”故郷」と、そして長期的に目指すキーワードを「笑顔あふれる幸せのまち 松田」と設定し、寄せられたご意見等に基づく戦略課題を三つのまちづくりテーマに分類した。

さらに、各種施策を 6 つの柱に体系付け基本計画としたが、今後、実施計画を策定するにあたって、次の点に留意されるよう強く希望する。

1 協働・連携協力

町民主役のまちづくりを推進するルールを定めた松田町自治基本条例が本年 10 月に施行された。人口減少や少子高齢化といった喫緊の課題に立ち向かっていくためには、同条例に規定する「情報共有」「参加」「協働・連携協力」の 3 原則に基づきまちづくりを推進していくことが求められる。

本計画の策定にあたっては、町民アンケートや座談会、各種団体ヒアリング、中学生のワークショップ、そしてパブリックコメントを経て、多くの意見を聴取してきた。「駅周辺の整備」や「買い物の利便性を高める」をはじめとするご意見に真摯に向き合い、実効性

のある実施計画を定めること。

また、他人任せで町の賑わいを戻すことは実現しない。押し付けでない新たな「参加」「協働・連携協力」を模索・推進し、地域を巻き込むような仕組み作りに取り組みたい。

2 魅力づくり

消滅可能性を指摘される本町にあっては、各種課題の解消は勿論のこと、既存の地域資源や強みを活用し、未来指向で賑わいを創生する持続可能な取り組みを加速していくことが必要である。

先人から受け継いだ豊かな自然や、交通の要衝としての立地・環境等は、次代に引き継がねばならない貴重な財産であり、町を創生する重要な要素でもあるため、この強みを更に強靱化する実施計画を定めること。

急激な変化を繰り返す時代にあっても、その要請に適合した新たな施策・事業に対して、臆することなく積極的に取り組まれない。

3 人づくり

松田町を形成する「人」を、育み、未来に繋ぎ、進化し続けることは、故郷まつだを未来へ残すことでもある。郷土愛や町民の誇りを醸成し、豊かな人財を育成する取り組みを実施計画で定めること。

特に、今後、人口減少や少子高齢社会といった課題に立ち向かっていくためには、次代を担う子どもたちへの投資は勿論のこと、女性や高齢者の活躍を推進すること、更には交流・関係人口の増加を図る中で移住を促進すること等が重要なキーワードである。

4 持続可能なまちづくり

本計画をまちづくりの羅針盤として運用するにあたっては、PDCAサイクルを着実に遂行することが必要である。

松田町自治基本条例の理念に基づき、施策・事業を評価し、財政面でも裏打ちのある行政経営と、まちづくりを推進していくことを実施計画で明記すること。